

進化経済学会

ニューズレター No.33

Oct. 2012

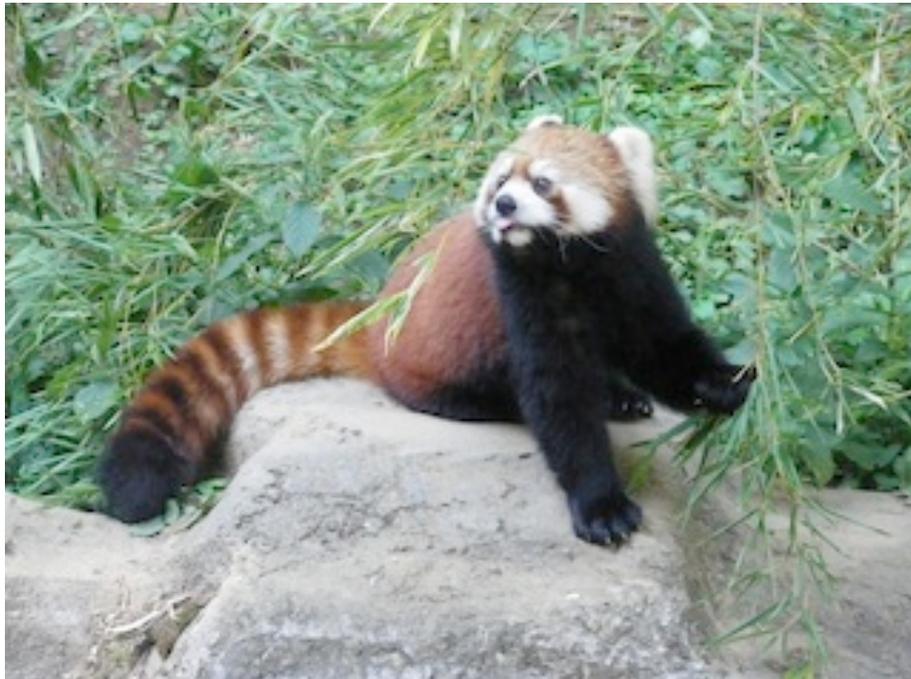
進化経済学会事務局

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19

国際文献印刷社内

03-5389-6493

evoeco-post@bunken.co.jp



(2012.09.15 : 多摩動物公園)

+++++

オートム・コンファレンス開催報告

サマースクール開催報告

第VI期第1回理事会記録

平成23年度収支計算書決算報告

平成24年度収支計算書中間報告

会員の異動

+++++

オータム・コンファレンス開催報告

第 17 回大会事務局 瀧澤弘和

去る 9 月 15 日 (土), 進化経済学会のオータム・コンファレンスが中央大学多摩キャンパスにおいて開催された。本コンファレンスでは, 進化経済学の初心に帰ることを念頭に, 「進化経済学の可能性」をテーマとした討議が行われた。

まず, 大会委員長の浅田統一郎氏 (中央大学) から開催の挨拶があり, 続いて, 塩沢由典氏 (元会長, 中央大学) から「進化経済学を棚卸しする: クルグマンの批判と進化経済学」というタイトルで基調講演がなされた。塩沢氏は「進化経済学の初心」として学会設立当初になされていた議論を紹介し, 「新古典派の非現実的で, 間違った理論ではない, 新しい経済学を作りたい。その際に「進化」という見方が手掛りになると考えていた」と説明した。また, 非主流派の生産性が低いとするクルグマンの進化経済学に対する批判を紹介したうえで, 最大化や均衡概念では掴めない現象があること, こうした概念に頼らなくても経済理論が構成可能であることなどを指摘し, 当面分析できないからといって, 主題の重要性は変わっておらず, 真に重要な問題に接近する努力が必要であるとした。また, これまで学会員によって発表されてきた論文や書籍を評価しながら, 今後取り上げるべきいくつかの課題を提案した。

その後, 各パネラーからの報告が行われた。江頭進氏 (小樽商科大学) が「進化経済学の方法論」について発表し, 因果関係が複雑すぎて, 観察からの直観的な帰納を用いて推測できないときに, 試行錯誤を繰り返して観察対象と類似

した現象を再現するという「構成的手法」の有用性について説明がなされた。有賀裕二氏 (中央大学) からは「テクノロジーと進化」について考察を加えることが必要であることが説明された。とりわけ, 金融取引を実現しているシステムが金融市場の不安定性を理解する際に欠かせない要因であることが強調された。横川信治氏 (武蔵大学) は「制度派マルクス経済学と進化」というタイトルで, 動学的比較優位論に基づくことで, 資本主義世界システムがよりよく理解できることを説明した。最後に, 吉田雅明氏 (専修大学) からは「進化経済学の初心と教科書編集作業から見てきたもの」について報告がなされた。なお, これらの発表については, 進化経済学会中央大学大会の Web サイトに当日の発表資料がアップロードされているので, 詳細は是非そちらをご覧ください。

最後にフロアを交えて, 進化経済学の可能性に関し, 活発な討論が行われた。大会参加者は 50 名を超え, 盛況のうちに閉会した。



サマースクール開催報告

サマースクール担当 小川一仁

9月14日午後、進化経済学会サマースクールを開催しました。担当者が小山・小川・吉野に委託されて以来、進化経済学の隣接諸分野との知的交流を目指し、それらの分野の第一線で研究活動を進めておられる方を講師にお迎えしてきました。これまで進化ゲーム理論、(数理)社会学、経済学史、労働経済学の分野からお招きしてきましたが、今回は地域経済をテーマに講師をお迎えしました。これまでの4回のサマースクールが手法に焦点をあてたものだったとすれば、今回のサマースクールは地域経済という進化経済学を問わず、様々な学問分野で注目的となっている対象に焦点をあてたものだと言えます。ですから、地域経済といっても切り口は様々です。

最初の講義を行って下さった小樽商科大学の宮崎義久さんは地域通貨を視点に北海道経済をどのように立て直すかについて、また、2つめの講義を行って下さった福島大学の巖成男さんは、中国の社会主義市場経済システムをレギュレーション理論の視点から分析する、というものでした。

以下、各講義について概要を記述したいと思います。

第一講義は午後2時10分から午後3時40分まで、前述の通り宮崎義久さん(小樽商科大学商学部学術研究員)による「北海道経済と地域通貨」が講義されました。この講義で宮崎さんは、最初に地域通貨の定義とその歴史、地域内の人・モノ・カネ・情報の好循環を生み出すための一手段としての地域通貨の可能性、北海道経済への地域通貨の活用事例、地域通貨の運営に関わる問題点について話されました。特に、北海道は国内他地域に先駆けて問題(人口減少、製造業の低迷、域際収支の赤字)を先取りしており、ここで地域通貨が地域活性化に寄与すれば、国内他地域でもその可能性が出てくるだろうと説明されました。

第二講義は午後4時から午後5時30分まで、巖成男さん(福島大学経済経営学類准教授)による「中国の社会主義市場経済システム理解するーレギュレーション理論に基づく解釈ー」が講義されました。報告は、これまで世界に類を見ない持続的な高い経済成長を遂げ、リーマンショック以降

の世界経済低迷の中で、世界経済回復の牽引力となっている中国の社会主義市場経済システムの背景にある「国家的調整」の中身を説明することを試みたものでした。中国における国家的調整の具体的な内容は、輸出主導型成長体制の促進、地域間格差の是正に伴う社会発展の推進、および国家主導のコーディネーションに基づく災害復興メカニズムとの関わりの中で説明されました。また、中国における国家的調整を可能にする三つの妥協(基本妥協、市場妥協、および権力妥協)は、経済成長の維持と財政システム(中央と地方の分税制)、ならびに人事システムによって支えられ、経済成長と地域住民の厚生を高めるための地方政府間の競争が促されている実態を説明しました。

このような国家(政府)主導の調整の結果として経済成長は維持され、国民所得の上昇と生活レベルの向上が実現したのですが、経済格差や環境破壊など持続可能な発展に関わる側面における解決すべき課題も浮かび上がっていることも事実です。ただし、功罪両面あるとは言え、中国的な調整メカニズムが一定の成功をもたらしたことには異論はないでしょう。特に、中国における国家主導のコーディネーションの好例として挙げられるのが、2008年四川大地震からの奇跡的な復興を支えた「ペアリング支援(ある被災地の復興をそれ以外の地域がペアとなって主たる支援する制度)」メカニズムであり、それは日本の東日本大震災からの復興における民間主導の復興と鮮明な対比をなし、学ぶべきところが少なくないと氏は説明しました。

今回お招きしたお二方の講義は、少子高齢社会に突入した日本の地域再生や東日本大震災からの復興の一助となるであろう、示唆に富んだものでした。今回の出席者は10名強で、われわれ主催者の宣伝不足もあったかと思いますが、これまでになく少ない回でした。われわれの担当は5年になり、今回が最後、と思っておりましたので、やや寂しい幕引きとなりました。来年度以降は、ニューズレター担当でもある、金沢大学の瀬尾崇さんを中心に新体制でサマースクールを運営していきます。新しい人たちで、新しい企画が始まると思いますので、会員の皆様におかれましては、今後ともご支援をお願いできれば幸いです。5年間ありがとうございました。



第VI期第1回理事会記録

記録作成者：理事・吉田雅明

2012/9/15 中央大学

1. 開催校挨拶

浅田統一郎理事・大会実行委員長

2. 会計報告

次ページの「決算・中間報告」を参照

3. 会計改革について

谷口和久会計担当理事より、学会会計のきわめて厳しい状況が報告され、収入確保、経費削減に関して次のような提案がなされ承認された。下記の対策を行っても事態が改善しない場合には会費の値上げを検討する。

A) 収入の維持・増加のために

- A1. 滞納金（平成24年度3月末現在約166万円）の納入は8月末現在で14万に留まる。滞納者への納入を再度お願いする。
- A2. 年会費納入時期を早期化する。振込用紙を4月に郵送し、原則として当該年度の予算執行は当該年度の収入でまかなう。（現在は、5月中旬に振込用紙を郵送しているため5月までの予算執行は前年度からの繰越金でまかなわなければならない。）
- A3. 63歳以上で5年分の会費を一括納入する「永年（終身）会員」（EIERが配布され大会参加できる）や、大会参加の資格はないがメーリングリストには載る「メール会員」（会費を安くする）を新設する。細部については来春の理事会で承認を得たうえで、大会の議決を経て規約の改定を行う。
- A4. EIER（紙媒体）の機関購読は現在21件に留まるので、機関購読を増やしたい。
- A5. 会費の3年分の前倒し納入をお願いしたい。

B) 支出の削減のために

国際文献印刷に委託していた会計業務を学会理事会で行うことにより約20万円削減されたが、一層の削減を進めなければならない。原則として、単年度で赤字にしないように、大会費、部会補助費、交通費の削減を行う。

4. メーリングリストの改善について

討論用メーリングリストを掲示板に統合する

とともに、掲示板を改善してより使いやすいものにする提案がなされ承認された。

5. 入会申請の審査

13件の入会申請書が審査され、全員承認された。

6. 大会報告およびセッション応募状況について

浅田統一郎理事・大会実行委員長より、大会報告応募状況が報告され、報告数、セッション数とも十分な状況にあるため、締め切りを延長しての再度募集は行わないことが承認された。

平成23年度 収支計算書決算報告
(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

貸借対照表
(平成24年3月31日現在)

収入	予算案	決算額	増減	支出	予算案	決算額	増減	(単位:円)	
								増減	増減
全費	4,325,000	4,265,000	-60,000	大会費	1,000,000	579,829	-420,171		
正会員経当年度	3,320,000	3,320,000		英文誌編集刊行費	2,000,000	2,603,969	603,969		
正会員過年度分		550,000		通信費	200,000	94,430	-105,570		
院生委員経当年度		260,000		交通費	100,000	25,000	-75,000		
院生委員過年度分		85,000		事務用品費	50,000	118,125	68,125		
奨助委員経当年度		50,000		謝金	40,000	0	-40,000		
奨助委員過年度分		106		送金手数料	20,000	8,755	-11,245		
利息	0	0		余積費	100,000	24,000	-76,000		
書籍売却代	200,000	302,080	102,080	印刷費	200,000	0	-200,000		
繰入金収入(科研費より)	0	700,059	700,059	事務委託費	750,000	794,733	44,733		
大会収益	0	236,000	236,000	国際交流費	50,000	50,000	0		
空取寄付金	0	50,000	50,000	部会補助費	350,000	350,000	0		
				経済学会連合会費	35,000	35,000	0		
当期収入合計	4,525,000	5,553,225	1,028,225	予備費	1,000,000	79,530	-20,470		
前期末繰越金	465,424	465,424	0	当期支出合計	4,995,000	4,713,371	-281,629		
総計	4,990,424	6,018,649	1,028,225	繰越金	-4,576	1,305,278	1,309,854		
				総計	4,990,424	6,018,649	1,028,225		

(費目ごとの内訳)

大会費用	59,309
消耗品費	8,100
会館費	210,000
大会講演演謝金	146,000
大会学生補助他	143,900
大会マテリアル印刷・送料他	11,140
交通費	1,380
庶込手数料など	579,829
英文誌編集刊行費	
EIER-1印刷費	1,171,065
EIER-2印刷費	885,465
校閲費・郵送料他	547,439
事務用品費	2,603,969
角4封筒作成代	23,625
会費請求封筒・用紙代	94,500
事務用品	118,125
会館費(理事会費等含む)	24,000
理事会	24,000

借方	貸方	(単位:円)
I.流動資産	II.流動負債	
預金	前受会費	40,000
普通預金		
郵便振替		
合計	合計	1,345,278

財産目録
(平成24年3月31日現在)

科目	管理部門	金額	金額	(単位:円)
流動資産				
預金	学会事務局(国際文庫)	558,962		
	学生会事務局(国際文庫)	786,316		
	三井住友銀行高田馬場支店			
	郵便振替口座			
資産合計			1,345,278	

(負債及び正味財産の部)

科目	適用	金額	金額
流動負債			
前受会費	2012年度分	40,000	40,000
負債合計			40,000
正味財産合計			465,424
			839,854
			1,345,278

上記の通り相違ないことを確認しました。

平成 24 年 6 月 20 日
 進化経済学会監査委員
 平成 24 年 7 月 1 日
 進化経済学会監査委員

澤 豊 紀 生
 服部 茂 幸



憲法経済学会
平成24年度 収支計算書中間報告
(平成24年4月1日～平成24年8月31日)

収入	予算案	決算額	増減	支出	予算案	決算額	増減	(単位:円)	
								予算案	決算額
会費	4,350,000	2,440,000	-1,910,000	大会費	1,000,000	0	-1,000,000	1,000,000	0
正会員該年度	2,110,000	2,110,000	0	英文誌編集刊行費	2,000,000	2,314	-1,978,659	2,000,000	2,314
正会員該年度分	1,400,000	1,400,000	0	通信費	100,000	61,356	-38,644	100,000	61,356
附生会員該年度	200,000	120,000	-80,000	交通費	100,000	0	-100,000	100,000	0
附生会員該年度分	200,000	200,000	0	事務用品費	50,000	23,625	-26,375	50,000	23,625
賛助会員該年度	50,000	50,000	0	贈金	40,000	0	-40,000	40,000	0
大会参加収入	1,500,000	0	-1,500,000	送金手数料	20,000	5,599	-14,401	20,000	5,599
利息	0	53	53	印刷費	0	0	0	0	0
寄付金	0	0	0	事務委託費	100,000	0	-100,000	100,000	0
書籍売却代	300,000	90,100	-209,900	国際交流費	50,000	248,180	-301,820	50,000	248,180
雑収入	0	411,600	411,600	部会補助費	350,000	0	-350,000	350,000	0
雑収入	0	0	0	経済学会連合会費	35,000	0	-35,000	35,000	0
当期収入合計	4,800,000	2,941,733	-1,858,267	予備費	100,000	0	-100,000	100,000	0
前期繰越金	1,305,278	1,305,278	0	当期支出合計	4,485,000	711,901	-3,783,099	4,485,000	711,901
総計	6,105,278	4,247,031	-1,858,247	繰越金	1,610,278	3,535,130	-1,924,852	1,610,278	3,535,130

貸借対照表
(平成24年8月31日現在)

借方	貸方	(単位:円)	
		借方	貸方
I 流動資産	II 流動負債		
現金	前受会費		20,000
預金			
普通預金		675,734	
郵便貯金		0	
郵便振替		1,879,396	
仮払金	III 正味財産		
	次期繰越金		1,305,278
	前期繰越金		2,229,852
	当期差控		3,555,130
合計	合計	3,555,130	3,555,130

財産目録
(平成24年8月31日現在)

科目	管理部門	金額	金額	(単位:円)
流動資産				
現金				
預金	会計担当理事	675,734		
	学会事務局(国際文庫)	1,879,396		
	郵便振替口座			
仮払金	大会準備金	1,000,000		
資産合計			3,555,130	

(負債及び正味財産の部)

科目	適用	金額	金額	(単位:円)
流動負債				
前受会費		20,000		
負債合計			20,000	
正味財産合計			3,555,130	
前期繰越金		1,305,278		
当期収支差額		2,229,852		
負債及び正味財産合計			3,555,130	

会員の異動

* 新規入会 *

会員名	フリガナ		発送先住所	所属機関名	推薦会員 (敬称略)
若森みどり	Wakamori	midori		首都大学東京 社会科学部研究科経営学専攻	清水耕一 鍋島直樹
朽木昭文	Kuchiki	Akifumi		日本大学 生物資源科学部	藤本隆宏 柗紫乃
上村聖	Kamimura	Shikato		首都大学東京大学院 社会科学部研究科博士後期課程 上村コンサルティング事務所	井出明 藤本隆宏
加藤浩司	Kato	Koji		京都大学大学院 経済学研究科修士課程	宇仁宏幸 呂守軍
青山秀明	Aoyama	Hideaki		京都大学大学院 理学研究科物理学第二教室	藤原義久 有賀裕二
井上純一	Inoue	Junichi		北海道大学大学院 情報科学研究科複合情報学専攻	有賀裕二 浅田統一郎
陳鶴	He	Chen		北海道大学大学院 情報科学研究科複合情報学専攻	有賀裕二 浅田統一郎
川村哲也	Kawamura	Tetsuya			小川一仁 小山友介
西條辰義	Saijo	Tatsuyoshi		大阪大学 社会科学部研究所	塩沢由典 浅田統一郎
松本昭夫	Matsumoto	Akio		中央大学経済学部	浅田統一郎 有賀裕二
佐藤彰洋	Sato	Akihiro		京都大学大学院 情報学研究科数理工学専攻	瀧澤弘和 有賀裕二
麻生憲一	Aso	Kenichi		奈良県立大学 地域創造学部観光学科	井出明 深瀬登

* 名簿訂正 *

会員名	変更箇所	住所/種別	TEL/FAX/e-mail	所属名
中村宙正	連絡先所属			独立行政法人中小企業 基盤整備機構専門職員 経営支援情報センター
李澤建	連絡先所属			大阪産業大学 経済学部

諸田浩一	連絡先		
荒川章義	連絡先		
吉地望	連絡先		
北川巨太	連絡先 所属		京都大学大学院 経済学研究科
中原隆幸	連絡先 所属		阪南大学 経済学部
末木将史	連絡先		
吉川満	種別 連絡先 所属		豊田中央研究所
菌田竜之介	種別 連絡先 所属		京都大学大学院 経済学研究科
高井亨	連絡先 所属		公立大学法人鳥取環境 大学地域イノベーション 研究センター
高橋真悟	種別 連絡先 所属		東京交通短期大学
山田鋭夫	所属		名古屋大学
中村隆之	連絡先 所属		青山学院大学
三輪仁	連絡先 所属		九州国際大学 経済学部
藤本正樹	連絡先		
杉山光信	E-mail		

村上雅俊	E-mail		
磯谷明德	E-mail		
久間清俊	E-mail		
大岩雄次郎	E-mail		
日向健	E-mail		
加藤淳一	E-mail		
荻林成章	E-mail		
酒井泰弘	E-mail		
佐野誠	E-mail		
篠原正人	E-mail		
内村研一	E-mail		
泉宏明	E-mail		
山本いずみ	E-mail		
瀧澤弘和	E-mail		
佐藤尚	E-mail		
田中剛志	連絡先		
宮崎義久	E-mail		
西洋	種別 連絡先		阪南大学 経済学部
バユス カン パ ユイス	連絡先 所属		京都外国語大学 外国語学部スペイン語 学科
木村雄一	E-mail		
Manahan Siallagan	E-mail		
馬田哲次	E-mail		

北原徹	E-mail		
旭貴朗	E-mail		
Luigi Alberto Di Martino	E-mail		
堀越比呂志	E-mail		
山下範久	E-mail		
土谷幸久	連絡先		
舛田佳弘	連絡先 所属		北海道大学 地域経済経営ネットワ ーク研究センター
呂守軍	種別 連絡先		

編集後記

掲載記事をお願いしておりました皆様から、早々に原稿を送っていただきまして、予定どおりニュースレターNo.33を配信することができました。ご協力いただき、感謝申し上げます。

サマースクール開催報告でも書かれておりますが、次年度よりサマースクール担当が新メンバーとなり、吉井哲会員（名古屋商科大学）と稲水伸行会員（筑波大学）と私の3名が担当することになりました。出身や分野の異なる3名で経験と知恵を出し合い、われわれも含めた(?)特に若手会員にとって有意義な企画を考えていきたいと思ひます。会員の皆様のご協力もぜひよろしくお願いいたしますと思ひます。

編集担当：瀬尾 崇（金沢大学経済学類）